

令和 6 年度 第 2 回 苫小牧市美術博物館協議会

日 時：2025 年 3 月 28 日（火）

14 時 00 分～15 時 00 分

会 場：苫小牧市美術博物館 1 階研修室 A

出席委員 赤塚委員、内海委員、菊池委員、木村委員、斎野委員、佐藤委員、中村委員、
松原委員、山田委員、渡邊委員

事務局

（教育部）福原教育長

（美術博物館）藤原館長、細矢主査、江崎主査、岩波主任学芸員、

沖津主任学芸員、立石主任学芸員、佐藤主任学芸員、岡本学芸員

1 開会 （進行）立石主任学芸員

2 委嘱状交付 福原教育長

3 挨拶 福原教育長

4 議事

（1）令和 7 年度事業計画について

（2）令和 7 年度予算について

（3）令和 6 年度 苫小牧市美術博物館事業評価報告書について

その他

会長（議事進行）

議事 1 「令和 7 年度事業計画」について、事務局から説明をお願いします。

事務局

それでは、議事（1）令和 7 年度 苫小牧市美術博物館事業計画について、ご説明させていただきます。

資料の 1 ページ目をお開き願います。

まず、令和 7 年度の展示事業についてご説明いたします。

7 年度の事業計画に関連する資料と致しまして、展示事業をまとめた「年間スケジュール」のリーフレットを、お手元にお配りしております。よろしければ、併せてそちらもご参照ください。

「（1）特別展」については「描く人、安彦良和」を実施いたします。

北海道遠軽町出身の安彦良和氏は、『機動戦士ガンダム』のキャラクターデザイナー兼アニメーションディレクターとして広く知られています。本展では、上京後、アニメ制作に加わり、漫画家に転身する安彦の半生を原画や映像を通して振り返ります。

「（2）企画展」につきましては、昨年度と同様合計 3 本の実施を予定しておりまして、美術関連の企画展 2 本、歴史関連の企画展 1 本の実施を予定しております。

①の「勇払幻視」展は、ご覧の 4 人の苫小牧ゆかりの画家による勇払原野をテーマにし

た絵画展となります。②の「苦小牧の文化財」展では、文化財保護条例制定70年を記念し、苦小牧における文化財保護の歴史と文化財について紹介します。③の苦小牧の美術史展では、戦後80年の節目を機に、画家たちの1940-50年代を検証します。

続きまして、「(3) 特集展示」につきましては、いずれも第3展示室での実施を予定しており、ご覧の2本の実施を予定しております。

①の「苦小牧ゆかりの書」では、市内公共施設等で所蔵されている書作品を紹介します。また、②の「勇払原野の戦争遺跡」では、現存する戦争遺跡をもとに、苦小牧にゆかりのある飛行場、トーチカなどに関する資料を紹介します。

続いて「(4) 収蔵品展」については、「福井正治×渡辺貞一」の二人展を開催いたします。当館所蔵の作品を中心に郷土ゆかりの画家福井正治と渡辺貞一の両者の詩情豊かな作品世界を紹介します。

次に「(5) 中庭展示」についてご説明いたします。

2012年の美術博物館としてのリニューアル以降、継続的に実施してきている本事業は、令和7年度で21回目を数えます。当該年度は、美術家兼僧侶の風間天心の新作インスタレーションを紹介いたします。

続いて、「(6) 収蔵展示室」についてご説明いたします。当館には、1階と2階の常設展示室内に収蔵展示室を設けており、適宜、展示替えをおこなっております。

1階の収蔵展示室では、自然史関連の所蔵資料の紹介と併せまして、自然や四季に関する所蔵作品の展示コーナーを設けており、随時、自然資料の入れ替えや美術作品の展示に努めています。ご覧のとおり、令和7年度は、自然史は2回、美術のミニギャラリーは季節ごとに分けて3回にわたり展示を実施いたします。

また、2階の収蔵展示室では、歴史及び考古関連の収蔵資料の展示を実施しておりまして、随時展示の更新を行っております。

次に「(7) 2階展望ロビー」につきましては、各年度、各分野の学芸員がもちまわりで小規模な展示を実施しております。また、「(8)」の「無料スペースにおける展示」につきましては、静川遺跡出土資料などを展示する「①静川遺跡コーナー」のほか、「②」の1階ロビーでは、受付前のエントランス内において、時季にあわせた展示を随時おこなっております。

このほか、「(9)」に記載の鳥獣保護センターにおける「サテライト展示」では、生物の標本などの展示を年に1回更新しております。

続きまして、資料の3ページ目をお開き願います。「2番」「教育普及事業」についてご説明いたします。当館では、例年、事前登録制の「(1)」の「通年プログラム」と、その都度、参加をお申込みいただく「(2)」の体験プログラム」の2項目に分けて、各種プログラムを実施しております。

「(1) 通年プログラム」の「①」番目「美術博物館大学講座」は、毎年100名前後のご参加をいただき、ご好評をいただいている各分野の専門講師をお招きする登録制の講座シリーズです。ご覧の全9講座について記載のとおり実施する予定となっております。

このほか、市内の小中学生が当館で開催される展示などを取材する「②子ども広報部「びとこま」」を約9回、「③古文書解読講座」の初級編と中級編を合わせて7回、そして「④考古学講座」を4回実施いたします。

続きまして、4 ページ目をお開き下さい。

「教育普及事業」の「(2) 体験プログラム」についてご説明いたします。

「①美術博物館祭 2025」では、苫小牧アートフェスティバルと連携した各種プログラムを実施する予定で、令和7年度は特別展「安彦」展と連動したワークショップ等を軸に各種プログラムを実施いたします。また、「②」の「ミュージアムラボ」では、ご覧の各種プログラムを実施いたします。「③無料観覧日」では、5月5日と11月3日の年2回、無料の観覧日に合わせて、各種イベントを実施いたします。このほか、「④歴史見学会」及び「⑤自然観察会」の実施により、苫小牧市内のまちの歴史や植生などに親しむ機会を設けます。

続きまして、「(3) 学校連携プログラム」につきましては、市内小学校3・4年生を対象に、毎年9月から11月に実施している「①郷土学習」をはじめ、8月に小中学校の教員を対象に実施している「②教員のための博物館の日」、学芸員やアーティストが学校に出向いて美術作品の興味関心を高める「③アウトリーチ事業」、さらには「④総合学習・職場体験」、そして「⑤博物館実習」など、5つの事業を実施しております。

「(4) その他の教育普及事業」につきましては、ご覧のとおり「①出前講座」とそれに伴う講師派遣や、「②展示解説」、「③資料の貸出業務」など主にご覧の7つの普及事業について、ご要望に応じて随時、行っているところです。

このほか、各学芸員の専門分野やテーマに則りながら、ご覧の3番「資料の収集、保存」及び4番「調査・研究」について、活動を行っているところです。

また、当館では広報及び顧客満足度の向上のため、5番に記載の「広報・CS向上」のとおり、年報、紀要などをはじめとする印刷物の発行、配布、公式ホームページ及びSNSの運営、さらには、ページをめくりまして6ページ目に記載のとおり、新聞、テレビ等各種メディアへの情報発信を行っております。内容詳細については、資料に記載のとおりとなっておりますので、お目通しいただければと存じます。

6番の「市民協働」、7番の「埋蔵文化財の保護」、8番の「展示室貸出事業」につきましては、ご覧の内容により前年度に引き続き、令和7年度も取り組みを実践してまいります。

9番の「主な参加・連携事業」といたしましては、ご覧のとおり20項目を挙げさせていただきます。新規事業といたしましては、(19)の「苫小牧看護専門学校への講師派遣」となりまして、看護専門学校のカリキュラムの変更に伴い、自然、考古、歴史の学芸員が「出前講座」というかたちで講師として出向く予定でおります。今後も関係各所との連携を深めることで、より充実した博物館活動の実施に努めて参りたいと考えております。

令和7年度の美術博物館事業計画についての説明は以上になります。

続きまして、議事(2) 令和7年度 勇武津資料館事業計画について、ご説明させていただきます。

「1 教育普及事業」といたしましては「(1) ふるさと歴史講座」を1回、「(2) ふるさと探訪」を1回、「(3) 生活体験教室」を8回、そして手織りサークル「ゆのみ」と共催した「(4) 機織り体験教室」を3回行う予定でございます。機織り体験教室以外の行事は、いずれも資料館の職員が担当いたします。

「2 学習・文化活動の支援」といたしましては、藍染体験や勇払の歴史講座など、勇払小中学校の総合学習を支援する「(1) 勇払地区学校運営協議会事業」、手織りサークル「ゆのみ」の支援を行う「(2) サークル活動の支援」、勇武津資料館友の会の事業に協力する「(3) 友の会事業の支援・共催」、講座の依頼に対し講師を派遣する「(4) 講師派遣」の4つの事業を行うほか、団体への解説を随時行う予定でございます。

「3 展示事業」といたしましては、手織りサークル「ゆのみ」の作品展示を9月9日から15日まで開催する予定です。

以上で勇武津資料館の事業報告を終わります。

引き続き、議事(3) 令和6年度 苫小牧市美術博物館事業評価報告書について、ご説明させていただきます。

これまで、この事業評価報告書につきましては、美術博物館の自己評価も踏まえて、委員皆さんに二次評価をしてもらい、内容をまとめた形で委員皆さんに送付させていただくとともにホームページで公表してきました。

ただ、前回の会議の中で、意見などに対する当館の取組が分かるといいというお話があったと思います。

そのご意見を踏まえて、抜粋になりますが、当館の取組等について、紹介させていただければと思い、今回は議案とさせていただきました。

それでは、資料6ページをお開き願います。

下段から展示事業に関する二次評価があります。

7ページをお開き願います。

まず、北大苫小牧研究林の収蔵資料の共同展示について、ご提案いただきました。こちらにつきましては、当館としてもありがたい申し出です。例えば、常設展示室に自然史関係の展示スペースがあります。そちらの資料を一部入れ替えて、展示することは可能と思いますので、今後、どのような資料をお借りして展示するか相談させていただきたいと思っています。

次に、ゴールデンカムイの展覧会は費用的にも難しいかもしれませんが、漫画の中に当館の資料をモデルにした煙草入れと矢毒入れが出ています。その縁で、作者である野田サトル先生から直筆サイン色紙をいただき、常設展示室で公開しています。当館のホームページで紹介させていただいていますが、色紙を目当てに来館される方がいるなど、来館機会の創出に繋がっているところです。

また、令和7年度に「機動戦士ガンダム」などで知られる安彦良和先生の展覧会を開催します。おそらくこれまでと違った客層の方も来館されるのではないかと考えています。それらの方に博物館についてもご覧いただければと期待しているところでございます。

次に8ページをお開き願います。

資料の収集に係る二次評価についてですが、資料のデジタル化への意見をいただきました。こちらについては、令和5年に博物館法が改正され、博物館の事業の中に、資料のデジタル・アーカイブ化が追加されました。当館では、絵画については、約1,000点、全体の7割程度デジタル化が完了しているところです。そのうち著作権などの関係で、公開しているデータは約750点になります。その他の資料については、あまりデジタル化が進ん

でないのが現状です。まとめて多額の費用を掛けて、デジタル化を進めていきたいところですが、現実的にはなかなか難しいので、現在は、当館の資料を使用する企画展などに合わせて、プロの方に写真を撮ってもらい、少しずつデジタル化を進めているところです。

次に9ページの調査研究活動に係る二次評価についてですが、職員の増員について、市全体としてのところについて、お答えするのは難しいですが、美術博物館については、学芸員の人数を増やすことは難しいと考えています。今いる人数の中で、誰がどの分野を担当するかという話しかできないと思っています。調査研究については、学芸員の大切な業務の1つです。調査研究の成果を自分の中にとどめるのではなく、まとめて、公表することが大切だと考えています。展覧会で紹介したり、紀要という報告書にまとめて公表していますが、特定の学芸員にかたよることなく、成果を皆が公表できるよう取り組んでいきます。

最後に10ページの管理運営に係る二次評価についてです。若年層の興味を引く展覧会として、博物館の時代も合わせて40年目を迎えますが、当館で初めてアニメの展覧会を開催します。美術博物館になったことから、このような展覧会にも取り組めるようになったと考えています。郷土苦小牧に関する展示が第一で、次はいつということは言えませんが、様々な展覧会を開催できればと考えています。SNSについては、現在、苦小牧市の公式ラインと当館独自のフェイスブックとX（昔のツイッター）を活用しています。SNSも含めて広報を担当している学芸員がおりますので、どのようなSNSを活用することが、当館にとって効果的なのか検討していきたいと思います。ただ、SNSは、こまめな情報発信が必要と考えています。フェイスブックは年間約180回、Xは約270回の更新をしています。単純に増やせばいいともならないと思いますので検討させていただきたいと思います。ボランティア活動について、様々な活動機会を設けることは、当館の取組を知っていただくという点からも意義があることだと考えております。ただ、展覧会の展示活動について活動機会を設けることは、なかなか難しいと思っています。他施設からの借用資料が多くあることや展示期間を少しでも長くするため、作業期間をできるだけ短くしています。令和6年度でいうと、春の企画展と夏の特別展の間は、休館日も含めて12日、夏と秋の間は19日、秋と冬の間は26日でした。資料の撤収に4～5日、設置に1～2週間と考えていただければと思いますが、もしかしたら、この日数が十分すぎると感じられるかもしれません。ただ、作品や資料の展示にあたっては、1点、1点、資料の状態を確認しています。例えば、資料を借りる際には、直接、借用先にお邪魔して、資料を包む前に、資料の状態や弱い部分などを双方で確認してから、移動に耐えられるように梱包して、運搬しています。返却時も当然、開封して双方で資料の状態を確認しあっています。仮にでも壊れた、欠けた、傷つけたなどがあってはならないことなので、最新の注意を払って作業しています。そのようなことがあった場合には、補償問題にもなりますし、資料の扱いが雑な館として、今後貸出してもらえなくなってしまうかもしれません。ある程度お金があれば、美術品の運搬専門業者をお願いしたいところですが、そこまでのお金もない当館では、ほぼ自前で作業しています。なので、非常に短い期間で学芸員が丁寧に作業していることをお知りいただければと思います。今回、冬に開催した自然史の展覧会に向けて、ボランティアさんの活動機会があったと思いますが、26日という期間があったことと、扱っていただいた資料が、担当学芸員やボランティアさんが採集し、展覧会での展

示も念頭に置いて作成した資料ということで、機会を設けることができたものでした。学芸員の作業を知ってもらうという点においては、非常に有益なことと思いますが、そのような事情もあるということをご理解いただければと思います。ただ、今年度は、これまで、美術館友の会の皆様にだけご協力いただいていたポスター・チラシの発送準備に、ボランティアさんにご協力いただくなど、新たな活動の場も設けることができました。これからも、様々な活動の場を提供できればと考えていますので、ご協力いただけるとありがたいと思います。

「令和6年度 苫小牧市美術博物館事業評価報告書」の説明は以上になります。どうぞよろしくお願いいたします。

最後に令和7年度予算の概要についてご説明いたします。

最初に、下段の歳出ですが、昨年度と比較しますと19,112千円の増額となっておりますが、この主な要因は美術博物館及び勇武津資料館の照明のうち、年間1,600時間以上点灯している非LED照明を国の補助金を活用して、LED化する工事となっております。

美術博物館、勇武津資料館管理運営に経費および企画展・特別展等展示等に関する費用は、ほぼ同額となっております。

また、遺跡発掘調査等事業費が50万円の増額、アイヌ文化関連展示整備事業費が2,020万円の増額となっております。

次に、上段の歳入ですが、19,112千円の増となっておりますが、この主な要因は、美術博物館LED化事業及び勇武津資料館LED化事業によるものです。

簡単ですが、以上で説明を終わらせていただきます。

<質疑応答>

会長

それでは、なにかご質問、ご意見はありませんでしょうか。

委員

事業計画6ページ目の8番ですね。展示室貸し出し事業について確認いたします。例年、貸出展示室について3月下旬から4月上旬となっておりますけれど、これが日程は決まっているのでしょうか。

館長

この計画書を作るという段階においては、はっきりとまだ令和8年度の事業の日程は決まっていないというのもあります。

委員

たしか令和5年のときも同じような質問をさせていただいたんですけど、教育委員会の方との連携で、3月、年度中に展示室を貸してほしいという、希望を出すために日程は、詳細はわからないと出せないという事情をお話ししたのですが、やはり例年通りということになってしまいますか。

館長

そういう話を聞いて、例年それまでのときは「広報とまこまい」の締切りが遅かったの、そこを早めて前回もお出ししていたと思ったんですけど、そういったかたちでできる

だけ早めにお伝えするってことは今後もやっていきたいなと思います。まず先ほど委員がおっしゃったように、その期間がわかって初めてどういうことをやろうかということを考えるしかできないと。

委員

前にも話したとおり助成制度が2月で締切りなんですよ。申請が年度の2月に締め切るものですから、3月いっぱいには事業をやるって貸してほしいという提出ができないんです。ですから変更覚悟で出さざるをえない。美術館を貸してほしいというお願いをするのに3月の年度だけでも4月以降で出せばかまわないんですけど、3月のいつからっていうのを今後、その辺の繋がりをぜひお願いしたいなと思っています。

会長

よろしいですか。ほかにありませんでしょうか。

委員

はい。すみません、前に戻ってもよいですか？

会長

はい。

委員

ちょっと気がついた部分をお伝えしておきたいと思います。事業計画の令和7年度を見させていただいて、今までにない取り組みとかも見られて、皆さん、いろいろとアイディアを持っていらっしゃるんだなというふうな印象を受けました。2点あるんですけど、1点目がこれはちょっとお聞きしたかったのが、(2) 企画展の①「勇払幻視」、もうすぐ開幕する絵画展と、特集展示②のほうにですね「勇払平野の戦争遺跡」とありますけれど、ほかのもそうなんですけど、すごい地元志向が強まってそれはとてもよいことだなと思いました。それで、「勇払原野」っていう文言が年に2度出てくるっていうのは今まであまりなかった気がするんですけど、これは何か意識して「苫小牧」、「勇払原野」というのを1年で何か意識したことなのでしょうか。

館長

まず「勇払幻視」について、苫小牧ということ考えたときに、いろんな苫小牧の作家さんが絵を描いたりですとか、苫小牧の特徴ですね、樽前山であったり、勇払というのが特色として捉えられているというのと、4名の方々がそういう絵を多く描かれているというところもあって、そのイメージをどのように共有したらといったなかで、作家さんのみなさんと相談しながらこういうタイトルに企画展のほうはなりました。この特集展示「勇払平野の戦争遺跡」については、どういうものを取り上げようかといったときに、こちらにも一部ありますが、トーチカであったり、こういうものの一部がある地域に残っているみたいなんです。そういったことも含めてこちらのほうで、お互いに意識したわけではないですけども、こういうようなタイトルで苫小牧の戦争遺跡について触れるという中でこのように決まったわけです。

委員

それで私が「勇払原野」という言葉にひっかかったのは、今、「勇払原野」っていう言葉は残っているんですけど、現実の昔ながらの原野というものが今、消えつつあるという強い印象を持ってまして、ウトナイの隣の高速道路もすっかり工業団地化して、ただの野地

として、空き地がすっかり利用されて無くなっている。それで苦東の工業地帯も私、最近行ってないんですけれども、そこも今、一時、開発が進まなくて自然が残っていたものが、今、もうどんどん利用する計画が進んでいて大規模なソーラーの計画とかもあって、たまに通るかかるとそういう土地が削られて行っているのが見えてきたりもしているので「勇払原野」という言葉自体が独り歩きをしてしまう恐れはないのだろうかとか、あとやっぱり、そういう展示をせっかくするのであれば「勇払原野」ってなんだろうというように思うんです。

館長

美術史の展覧会のなかで、いきなり「勇払原野」とはこうですというように触れるのは、なかなか難しいのかもしれないですね。

委員

そうですね。ただ、「勇払原野」って何だろうっていう、なんか定義というか、ちょっと感じてもらうとか、何かそういったものがそこをメインにするのではなく、やっぱり触れないと、もうわからない世代が増えてきているのではないかって思うんですね。若い方にも来てもらおうとしてガンダムのアニメーション・ディレクターとか、そういったせっかくこういう企画を立てたりしているときなので、私たち世代は「勇払原野」っていうのは、ハスカップがまずあってとか、ぎりぎり知っている新しく来られた方とかは、もう全くわからないのではないかという心配があるんですね。それで、無くなりつつあるものを、それをどう伝えるかっていうのもまたちょっと難しいところなんですけれども、でも、それをしなければ、ただの言葉で終わってしまう。今、現実には勇払原野、勇払地区はあるけれども、じゃあその原野はなんだろうっていう、実際に示すものが今、なくなりつつあるのが本当に現実なので、どうにかその昔のイメージができるものがないと、何が「勇払原野」なのかっていう、なんでそういう「勇払原野」という言葉が伝わってきてるのか、そういうイメージができるものがないと、ただのお飾りにならないかっていうちょっと心配がありますね。今現段階で本当になくなりつつあるので、そういうちょっと触れるものがあるとうれしいというか、やはりありがたいなという気がしています。

会長

そういう企画展のところと下の特集展示のところで、「勇払平野」という名前を入れてますからね。だから「勇払原野」ってどういうものかっていう説明は何らかで、こう書くといいでしょうね。

委員

この企画展のチラシを裏にもちょっと触れているんですよ。

会長

だから「勇払原野」は、今そのものが残ってないんですよ。苦東開発やってますから。だから、今は「勇払原野」はないけど、かつてあった「勇払原野」っていうものがどういうものかっていうのが、企画展やこの中で説明されていけばそれでいいんじゃないかと思いますけどね。かつて「勇払原野」があって、それをイメージして絵で描いた人もいますし。それから「勇払原野」のなかにトーチカとか、そういったものもありますから、けど、「勇払原野」と言われたもののほとんどは、工業地帯になっちゃったわけですから、「勇払原野」そのものがずっと今も未来も残るってことはないんですよ。最終的には工場地

帯と周辺を含む緑地地帯だとか、ウトナイ湖とかそういう一部、自然保護も、あるところもありますけど、だから委員さんが心配しているのであれば、きちっと「勇払原野」っていうものだったんだよってことが、わかるようにしていただければいいんじゃないですかね。今はもう「勇払原野」は残ったということはないですから。

館長

どういう形で、美術として、戦争遺跡として、そのなかでどういうふうに取り上げられるかはちょっと今、どうこうまでは言えませんが、ちょっと検討していきたいと思います。

委員

ぜひ検討してほしい。例えばこの4名の作家も、ここで過ごした方だっというふうにちらっと書かれていたんですけど、どこで暮らして生まれたとか、その幼少期なのかちょっとわからないんですけど、生い立ち、なんかゆかりがあるのかっというのがあるって、そういう苦小牧のどの部分なのか、具体的にもしわかるのであれば、こういう場所を見て育ったというか亡くなっていると、苦小牧のそういう「勇払原野」と言われますけど、どの部分にこういうゆかりがあるのかみたいな、そういうのも、もしあるのであれば、何かそういうのもちょっと紹介いただければなっというふうに思って。でないと生きたものにならない気がするんですね。ただ過去のものであって、原野っというのがただ、幻想的なもので終わってしまわないようにできればと思います。現在、もうなくなっはいるんだけど、でもどの時代の「勇払原野」っというのかにもよると思うんですよね。本当に開拓者がやってきた時代のことを言っているのか。開拓から現在までの「勇払原野」っ、それぞれのイメージがあまりにもちょっと幅が、今、開発が進んでいるので、この方たちと「勇払原野」っってなんだろうっという立ち位置がみえるんじゃないかなと思います。あと、もう一点が別にその意見を持つわけではなくって、次回からですね、何か企画するときそういうのはどうかなっというちょっと提案ではないんですけど、考える一端としてちょっと気がついた、思ったことなんですけど、私達ガンダムの初代世代の者です。高校生のときに第一作が出てもうみんな見た世代なんです。すごい人気で、若い人に限らず、この世代の方たちっというのには本当になじみがある。そんななかで楽しみです。ふと思ったのが、これたぶん夏休みに若い人が来やすいとか、いろんな町から来やすいように、この夏休みに展示の日付を当ててると思うんですけども、例えば苦小牧でしたら11月にコスプレフェスをやってますよね。結構なんか海外とかそういう馴染んでる人たちには、もうなんか定着しつつあると思う。結構人気のあるイベントだっというふうに見てますので、例えばそういう機会にぶつけるっという手もあったのではないかなっというふうに思ったので、もし可能であれば次回から検討していただければと思います。

館長

安彦展は巡回展でして、そんな中でいつならうまくつなげるか、苦小牧であれば、その時期であつたり、今回はたとえば文化財展であつたりが11月にはある。そういういろいろコスプレフェスとかは人が集まるので、それも確かにいいですが、期間を考えるとときには、ここだけというのではなく、色々なことを考えながらやるというのが大事だなと思います。

委員

はい。よりいっそう盛り上がるきっかけになるのかなと思います。

会長

よろしいですか。はい。他にご意見どうぞ

委員

今のことに関連して、この戦争遺跡の展示が冬に行われるのはちょっとやっぱり、戦争のことって8月にすごく盛り上がるので。いろんな他の計画との事情があったと思うんですけど、普通の報道なんかもやっぱり8月がピークでそれを過ぎると、だんだん話題も盛り下がっていくところなので、これ8月にやればもっとよかったのかなと、重宝されたのかなと。夏の方はこういうのを見て、この遺跡に足を運ぶだとか、それもいいと思うんですけども、冬だといけなくなってしまう。なんか事情が、あったのかなと思います。

館長

今年はテレビとかでも大きくとりあげられる時期だと思うので、やはりその前後は、そういう話題があがったりですとか、市の中で平和活動というところでは、その時期に色々な取組をされたり、現実にあると思うんですけど、ちょっと時期がずれてしまうっていうのはご指摘のとおりです。

会長

他に何かご意見ございますか。

委員

アンケートの中で年が明けたら、安彦良和っていうことで、すごく今、楽しみで楽しみでしょうがない。やはり小学校の校長会でも、ガンダムが好きな校長先生がいたりとか、うちの学校の職員でも好きな先生がいる状態で、じゃあ、私が何をできるかなと考えたときに、これ長期休業と丸被りなので長期休業に入る前によく校長名で挨拶、お話をしますよね、子どもに。そのときはいつも、この夏休み冬休みは校長先生、こういうことを挑戦するからね、みたいなところを話すんですけど、それで例えば校長先生、展示見に行くよとか、夏休み前に見てたら、見に行ったから、みんなも行ってねと。あとは校長室に遊びに来る子どもに宣伝したりとか。私がこの委員だということもあるので、例えば学校だよりを書いてもいいと思うんですね。それは何か金銭とかコマーシャルとかではなくて、こういう会議でこうだったよとか。微力ながらご協力させていただければと思います。

館長

ありがとうございます。校長会を通して、学校さんの方にもポスター・チラシを送らせていただきますので、よろしくお願いいたします。

会長

子どもたちいっぱい来てもらいたいですね。

ありがとうございます。

「その他」について事務局から何かありませんか。

館長

それでは、学芸員のPRも兼ねて、9番の(2)なんですけれども、北海道博物館協会の学芸職員部会の総会・研修会、これが道内の持ち回りで行っているんですけども、令和7年度については苫小牧でやることになっておりまして、まだ、そのへんはつきりとは決まっていないのですが、80人、90人位の全道の学芸員の方々が苫小牧に来ていただいて、研修会とかを設けることになるという、そういう取組も学芸員が一生懸命やってお

りますので、ぜひよろしくお願いいたします。

会長

その他、何かありませんでしょうか。それでは、以上をもちまして、質疑を終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

これで令和6年度第2回目の美術博物館協議会を終了いたしたいと思います。皆様ご協力ありがとうございました。最後に美術博物館から美術博物館資料収集委員会の設置が求められております。資料収集要項の中で収集委員会の委員は5人となっておりますけれども、これを協議会の会長が指名して、協議会の承認を得ることになっておりますので、この要綱に基づきまして私の方から委員を指名させていただきますのでよろしくお願いいたします。どうぞよろしくお願いいたします。それでは私の他に4人の委員を指名させていただきます。前回まで収集委員を務めていただいていた二人の委員と新たに二人の委員をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。よろしいでしょうか。そのように決めさせていただきますありがとうございます。それでは、この協議会終了後、収集委員会を開催しますので、よろしくお願いいたします。以上で終わります。

事務局

会長、どうもありがとうございました。委員の皆様方お疲れさまでした。また、本日配付しました「美術博物館だより」には、今年度の事業報告が掲載されておりますので、ご一読いただければと思います。以上をもちまして、本日の会議を終了させていただきます。本日はご出席いただき、ありがとうございました。